

## 下手の横好き

札幌医科大学医師会  
北海道庁

栗井 是臣

ゴルフクラブを初めて手にしたのは、平成3年。勤務先の室蘭保健所の職員から、おさがりを譲り受け、薦められるままにレッスンを8回受講し、ゴルフ場にデビューしたのが始まり。スコアは天文学的な数値だったはず。

それでも、渋々とラウンドを重ねるうちに面白くなり、名寄保健所に勤務していた平成11年からの3年間は、自宅、職場、ゴルフ場が近く、早朝ゴルフを7時過ぎに終えられることから、バッグを担ぎ歩き、年間60回も出勤前早朝をしたのには自身も驚き。

札幌勤務以降は、当初、とにかく安価なコースを探しプレーをする中、平成24年に知人と一緒に札幌エルムカントリークラブ会員権を購入。

スイングもパットも下手なため、上手く振れる理屈を毎日のように考え、実践ではその理屈を念仏のように唱えながら振るものの、期待する動作を実現できたためしは皆無。

それでも、あの手この手を工夫し、5年ほど前には6インチプレースを適用しながら4回に1回ぐらい90をギリギリ切るようにもなりゴルフが楽しかった。ハンデも12.9となり、勢いづいてエルムのハンデ戦Bクラスに参加し、知らない方々3人に囲まれながら、普段の生ぬるい6インチルールではなく、ノータッチ、OK無しの条件が、ほどよい緊張や無茶振り防止に繋がったのか、7位に入賞し5千円の商品券を頂いたのが我がゴルフ人生の頂点で、以後、転落の道を歩むことに。

腰が元来悪い上に膝関節症とテニス肘（下手なために左ではなく右肘）も重なり、職場でも常時、足底板と肘サポーターを欠かせなくなり、その後は、極めて順調にハンデは悪化し、今年7月に届いたハガキには、19.2のミゼラブルな刻印が。

下手が加速し始めた3年ぐらい前から、ゴルフはもうやめて再び釣りに転向しようかと思いつつも、ごくたまに上手くいくためダラダラと続いている。

COVID-19の流行により、3密回避や種々の行動自粛が求められる中、私にとってはゴルフが数少ない安全なレクリエーションとなり、それ以外は釣りか競馬となるため、やはりやめるわけにはいかない位置づけとなっている。

やるからには、少しでも人並みに近づいて飛ばせるよう、アイアンで左に引っ張らないよう、アンジュレーションにビビらないよう、念仏なしで打てるよう、パターフェースを左向きにして右に打つ癖を直すよう、左足下がりを斜面に沿って打てるよう等々、膨大な悩みが僅かでも減るよう唱えるのみである。

## 徒然雑感

札幌市医師会  
札幌市保健福祉局

菅 和洋

3年半前に札幌市を定年退職しました。退職後は仕事の量を現役時代の半分以下にして、自由に使える時間を増やしました。これまでも旅行には行っていました。今年も四国や山陰への旅行とアメリカ東海岸への旅行を計画していました。しかし、あいにこのコロナ禍で、すべてキャンセルになりました。外出の機会が減り、家で新聞や本を読んだり、テレビやタブレットを見る時間が増えました。歳をとったせいかな、若い人の活躍に感動することが多くなりました。最近感じたことを気の向くままに書いてみようと思います。

8月に二冠（王位・棋聖）となった藤井聡太棋士。最年少で四段昇段（プロ入り）、史上5人目の中学生棋士、公式戦29連勝、最年少で初タイトル・棋聖獲得、王位も獲得して最年少二冠、八段昇段と記録を次々と更新してきました。私は将棋を指しませんが、解説を聞きながら棋譜を見るのが好きです。彼の凄いところは、他の棋士が思いつかない手を打ったり、普通なら逃げるところで飛車を切ったりすることです。その時点でよし悪しははっきりしませんが、数手後に「最善手」だったと評価されたり、後に「神の一手」と言われたりすることがあります。深い読みで裏打ちされた一手だと思えます。また、インタビューでの受け答えもしっかりしており、とても高校生とは思えない言葉使いと態度です。今後の活躍も期待できると思います。

9月にテニスの全米オープン女子シングルスで2度目の優勝を果たし、四大大会通算3勝目の大坂なおみ選手。人種差別についての問題提起を示す黒いマスクを着用しての入退場、決勝戦での劇的な逆転勝利、インタビューでの発言内容など精神面での成長が感じられ印象的でした。

女子スポーツといえば昨年ゴルフの全英女子オープンで優勝した渋野日向子選手。日本人42年ぶりの海外メジャー制覇でした。彼女の良さはプレイスタイルにあると思います。一つのプレイが早いこと、マナーが非常に良いこと、笑顔が素晴らしくファンサービスを自覚していることです。決勝ラウンドも笑顔で戦い抜きました。解説の樋口久子さんが「新人類」と呼んだのも理解できます。プロゴルフのプレイスタイルに一石を投じたように感じました。今年も苦戦しているようですが、今後の健闘を期待しています。

コロナ禍で日常生活の行動様式が変わり、気力と体力が落ち込みがちな毎日ですが、若い人の活躍を見て元気をもらっています。